

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892000155		
法人名	有限会社エイプラスアール		
事業所名	カサプランカグループホーム魚住		
所在地	明石市魚住町中尾221-1		
自己評価作成日	平成25年10月20日	評価結果市町村受理日	平成25年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pccpub/kaigo/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 CSウオッチ
所在地	加古川市加古川町稲屋177-10
訪問調査日	平成25年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅のように居ごちの良い所、安心して生活ができる所になるよう努めている。傾聴・茶道・フラダンス・トーンチャイム・折り紙等お楽しみ目的の地域のボランティアへの呼びかけを積極的に行っている。又茶道・お花・手話のできる職員が居るのでレクリエーションに取り入れ楽しんで頂ける 施設敷地内には畑があり、種をまく所から収穫して調理をする所まで利用者様と共に行っている。野菜作りやお花の栽培で季節を感じていただける

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】①職員一人一人が生き生きと利用者と接する姿が印象的で、利用者も笑顔が多く見られる所は日々のチームで関わっていることが読み取れる。②日頃のコミュニケーションを大切に、お一人お一人の生活を大切に環境作りを行っている。③24時間看護師との連携が取れ、介護職員にも医療に関わるケアが行われており 看取りについても家族の要望に沿いながらケアが行われている。【工夫点】①運営会議に多くの家族に参加してもらえる様、情報提供や企画内容の工夫②職員の勤務年数や勤務体制に応じた勉強会や研修を計画的に進め職員の質向上を図る。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日理念を唱和しておりいつでも確認できるように各階提示している定例管理運営会議でも理念や基本方針を確認し入居者が気持ちよく生活できるよう実践行っている	フロアの見やすい所に掲示されており、朝礼時の申し送りの際に毎日唱和し理念の確認を行い 月1回の本部会議にて理念に沿ったケアの認識についても話し合いがなされている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の利用者様・職員・自治会・民生委員からの情報を得る事が出来るように日頃から交流を持ち初詣・お祭り・避難訓練等参加し積極的に関わりを持っている	地域の民生員の方がお向いにいらっしゃり地域の方の訪問や地域行事には積極的に参加し 交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	周辺住民の傾聴・折り紙・茶道・生け花・トーンチャイム等ボランティアの来訪を常にあり認知症に人と関わって戴き推進委員会で意見交換を行い介護保険利用法を解る範囲でお答えしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員会議では入居状況・行事報告の報告を行い地域の情報交換を行っている 自治会・民生委員・家族様・他事業所管理者・経営者に事前に案内を送り集まって意見交換しサービス向上に努めている	行政の参加が難しいもの 自治会長や民生員・利用者家族へ行事やボランティアに参加してもらうタイミングで参加しやすく工夫しながら 積極的に行っている。	自社でも感じているように、利用者家族の参加が回を重ねるごとに少なくなっている中、より多くの参加をもらう為に、家族参加型の企画を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	明石介護サービス事業所連絡会に必ず出し、情報交換をするようにしており困っている事迷っている事など対応策を聞き参考にしている	年に数回 研修や部会・総会などがあり必ず出席し情報交換をし連絡を取り合う関係が築けている。	実践現場の課題解決のためには、市町村の理解や支援が必要です。様々な機会への参加と積極的な連携を期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加して得た知識は職員と共有している自由で快適な生活ができるように支援方法を工夫し拘束のないケアを提供できるように努力しているやむを得ない拘束の必要がある時は慎重に検討している	ミーティングの機会に虐待の勉強会や外部研修などを利用し伝達講習等行っている。やむを得ない場合においては必要性をカンファレンスや家族と相談をしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の虐待の研修は参加し虐待につながるような発言やケアが見受けられた時には未然に防ぐ事ができるように良い方法を話し合い入居者が快適に生活できるようにしている	日常的に 管理者や職員同士での意識確認や注意をしあえる環境作りに心がけミーティングの場でも話し合いや薬等にも看護師からの指導など常に話し合える関係作りが出来ている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	積極的に研修に参加し管理者・ケアマネの知識は共有している今後必要性を考えて市町村に相談、助言をもらいながら支援はしていこうと考えている	外部研修なども利用し積極的に参加し、伝達講習を行うなど工夫している。事例が少ない中でも必要性に応じて書類の準備説明など事例をあげて支援の準備をしている。	
9		(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所側の出来る事を説明し、理解いただいている。終末期の在り方については、早い段階から支援方法についての話し合いを行っている。	契約時には具体的に事例をあげてプランの提示をしながらきめ細やかな説明を行っている。疑問に思う事も細かく説明対応がなされている。	
10		(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1ヶ月の様子を毎月担当の介護員が記入し家族様に報告している。毎月計画書を提示する時や面会に来られた時に家族様に要望や意見を聞き取り推進会議で意見交換を行っている	ご本人や家族から日々要望やお手紙など貰う中で出来るだけ希望や要望に答える努力と家族との意見交換を多く持ち反映させるようにしている。	
11		(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングでは統括部長・管理者参加の会議を行い介護職員の意見・提案等出し易いようにしており活発に意見を出し合っている。管理者と個人的に研修への参加の設定を行っている	毎月1回管理者会議を行い、現場でのミーティングのまとめや要望・希望など職員の意見や声を届ける場を設けられている。その結果を必ず記録を回覧する等、職員へ周知するよう働きかけている。	
12			○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況、介護技術は把握するようにし、努力は認め取得資格に応じて手当てを設定している。希望に日数・希望の休みは常識の範囲内で応じるようにしており出来る範囲内で添う様にしえちる		
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課表、自己評価を実施し、職員の介護技術、ケア方法を把握し、研修への参加の呼びかけを行っている		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定例部会に参加し他施設との交流を図り知り得た情報はケア会議の場で伝え職員全体で協議しサービスの質を向上させよう取り組みをしている		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護保険制度の利用開始に向けてご本人が困っている事はもちろん家族の願いも聴取し安心して施設利用できるよう努めている まず体験利用して頂き意向が合えば継続利用していただいています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前には自宅訪問しご本人との面接し、現在必要な支援は何であるかを聴取している。事業所として対応が可能であるか話し合っ家族の要望にこたえるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所施設を希望されても、まだ通いの利用が可能の場合デイサービス・訪問等利用方法がある事を説明する事もある。今の状態でどのような支援が必要かを見極めて対応するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様との会話、傾聴する中で知り得た情報に基づき介護者はご本人の持っておられる知識や経験を生かせる介護、残存機能を知り低下しないような支援に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と利用者との関係を良好に保てるよう支援している定期的に家族・利用者と相談し出来る範囲で関わっていただき事業所と情報を共有するようにしている		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人からの電話を取り次ぎ、面会に来ていただけるよう管理者やケアマネから声かけ行っている。民生委員にも面会に来ていただけるよう支援している来訪時もゆっくりしていただけるよう配慮している	地域の活動に積極的に参加したり、ボランティアの受け入れや 地域のコミュニティーセンターに出かけるなど交流を深め馴染みの関係が途切れないような支援を積極的に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の交友関係や趣味を把握し偏らないように席を配置して楽しめるようにしている。また何かあれば仲介し関わりを増やすような対応を行いお互いを支え合えるような関係作りに努めている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要なサービスを提供できるよう、定期的に訪問を行い相談や近況報告を受付家族への支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを大切にし、日頃より本人の真意を感じ取れるように努めている。	日々のコミュニケーションの中から、思いや暮らし方の希望をきく会話が展開されており、居室いにおいては思い思いの物を部屋に飾り独自の空間を作り出している。過去には自分の住まいに幾度か返り草むしりなども行っている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回のアセスメントだけでなく、常に家族や本人より聞き取りを行っている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共に過ごす時間を多く設け、モニタリングに努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の来訪時に聞き取りを行い、毎月のミーティングにて介護計画に反映させている。	日ごろよりケアマネとも情報共有をする中で本人や家族とも密に連携を行い 変化に気づいたらミーティングで話し合い 介護計画に反映している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの内容や気づきを記録し、職員間で情報を共有できるようにしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別対応を心がけ、その人らしい生活を送れるように支援している。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われているお祭りや行事に参加している。また、近隣を散歩したりと地域の方々との交流を図っている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医が定期的に往診を行っている。必要に応じて専門医に紹介していただいている。	常に看護師と連携出来る状況にあり提携医と必要に応じて日々気になる点などをFAXや電話でのやり取りを行いながら地域の病院との連携を深めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者との関わりの中での気付きや変化を訪問看護師や看護職に報告し、指示を仰いでいる。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される際には、家族と共に立ち会い病院側の説明を聞き、退院時には退院カンファレンスに参加している。	看護師が付き添いをするなど 病院との連携を深め退院時のカンファレンスに参加し、全職員に周知徹底できるように申し送りがなされている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所側の出来る事を説明し、理解いただいている。終末期の在り方については、早い段階から支援方法についての話し合いを行っている。	提携医と看護師の連携を密にし 看取り指針などの説明を基に職員や家族への説明を十分に行い終末期においてチームで関わり支援をおこなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に看護師より指導や講習を受けている。又、急変救急マニュアルの確認も行っている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施。1回は消防車に出動して頂き、隊員より講評を頂いている。地域の避難訓練にも参加している。	年2回 消防署や地域の自治会や利用者と共に避難訓練を定期的に行うことができている。	夜間の人員の少ない時の災害において実際に訓練を行っていきたいと意欲的に考えておられる点について、地域との連携やマニュアル作りなどを行い実際に訓練ができることを期待しています。

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様お一人おひとりを尊重し、個人に合わせた対応をしている。人としての誇りやプライバシーを確保できるような、言葉使いや態度で接するように心がけている。接遇マナー教育を実施している	明るい爽やかな態度や言葉使いで接しており、ミーティングや自己チェックリストを半年に1度実施するなど、接遇マナーにおいて教育を実施している。	新人研修や夜勤者に対してのマナー研修を定期的実施することが少ないとの見解もある為、勤務の工夫をして実施できることを期待しています。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護サービスの提供において介護計画を作成する時、複数の選択肢を提案し、決定している。また日常生活の中でも、ご本人の意思決定を大切に考えなるべく希望に添えるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活ベースに合わせて、その日の体調や気持ちに配慮し、希望を尊重した支援に努めている。食事は衛生管理の問題があるので、定められている時間に摂取して頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みや季節に合わせた身だしなみやおしゃれが出来、関心が保てるように働きかけている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	充実した献立により、食べる事の関心や楽しみが増えるように働きかけている。週1回の手作り料理やおやつ作りを一緒に作り、楽しさを増やしている。	日頃より好みの食べ物の情報収集や今までの印象的な食べ物など、日常の会話からヒントを得て外食や誕生日の機会に楽しめるように工夫している。持病についても配慮した食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により1日のカロリーや栄養バランスは確保できている。水分摂取量は1日の摂取量を把握し、体調や希望に合わせて調整している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕食後口腔ケアの実施を行っている。夜間は義歯は義歯洗浄液につけて、清潔保持に努めている。地域の歯科医と連携し適切な治療を実施している		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により個々の排泄パターンを把握し、トイレへの声かけを行い案内している。排泄の自立を支援している一方で、排泄失敗による羞恥心に配慮し、安心してもらえるよう対応している	排泄のパターンを把握し、排泄前の行動を見逃さないように様子観察をこまめに行うことで失敗の回数を減らし成功体験を積み重ねられるよう工夫されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中で必要な水分を摂取したり、筋力アップ体操や運動不足解消の為、毎日声かけし行ない自然排便ができるよう取り組んでいる。協力医師と連携を取り、必要な利用者には下剤にてコントロールを行っている		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴は一人ずつゆっくりと入浴出来るよう取り組んでいる。その日の体調や衛生面も配慮し、入浴の希望があればいつでも支援し、入浴していただいています。	現在は週に3回の入浴を実施しており、出来るだけ希望に添えるよう その日の体調や衛生面の考慮し入浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中体調がすぐれない日は臥床していただいています。それ以外はレクリエーションなど取り入れ、規則正しく過ごしていただいています。夜間、眠れない方の希望で医師の処方のもと、眠剤の服薬もしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ずつの服薬リストを作成し、どのような症状で服薬しているのかリストを参照にしている。症状に変化が見られた時は、医師に相談し、指示を仰ぎ、その都度全職員に周知徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	在宅時の生活歴を把握し、ご本人の得意分野が発揮出来るように、一緒に制作物を作成したり、簡単な家事をお願いし、お礼の言葉・感謝の気持ちを伝えるようにしている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数での外出機会を設け、買い物や公園等に出かけたり、個人の希望に対応するようになっている。施設内でも、畑やお花に親しみながら散歩をしていただいたり、お茶会を催したりしている	施設の立地上 海の近くにある為 季節の良い時など散歩に出かけたり、季節に応じた花を見に行くなど外出の機会を多く設けている。施設内にも気軽に畑や花を楽しむ場所があり 気分転換や楽しむ工夫がなされている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブル回避のため、基本的に事務所でお預かりしている。ただし、買い物などの外出時は必要な分を持参され、職員と買い物ができるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は家族様の事情によりかけられない方もおられ、時間帯などを考慮し可能な限り希望に添えられるように支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と協力し、季節に合わせた壁面作りをしている。リビングは床暖房と加湿器にて過ごしやすい温度調整をしている。また、一人になりたい時は個室にてゆっくりとくつろげる場所を提供している	見通しの良いフロアで日当たりもよく、静かな環境で、共有空間には季節感のある掲示物や利用者と協力し合った壁紙など 心地の良い空間づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にいくつものソファがあり、テレビ観賞・日光浴など一人または少人数でくつろげる、自宅にいるような生活空間を実現するようにしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の生活上の動線が移動しやすいようにダンス・ベッド等の配置を考え、本人の意見を尊重するようにしている。ベッドや寝具は貸出も出来るが、本人の好みの物も持ち込んでいただける	居室においては、お一人お一人の思い入れのある持ち物を飾ったり、カーテンや細かい小物に至るまで思い思いの居室作りがされており、落ち着けるスペースが工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やげた箱・テーブルに名札を付け、ご自分の場所が見つけやすい工夫をしている。「出来ること」「わかること」が継続して行えるよう、利用者・スタッフの意見を聞き、自立した生活を送れるよう取り組んでいる		